



からしだね

2022年1月号
(576号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

「新回勅『兄弟の皆さん』は過激な個人主義
に勝つために役立つ」

酒井俊弘司教

待降節黙想会

「十字架を見つめ、わたしの日々を想う」

大人の日曜学校報告

財務こぼれ話 第5回

1月・黙想会などのお知らせ

宝塚 黙想の家より

今月の表紙写真について

巻頭言

新回勅 「兄弟の皆さん」は過激な個人主義に勝つために役立つ

酒井俊弘 司教 (大阪大司教区)

私たちは人生においてさまざまな出会いを経験しますが、一生を左右する自分の生き方の転換の機会になるような出会いがあります。今回ご紹介する教皇フランシスコの回勅「兄弟の皆さん」は当に私たちの生き方、あなたの生き方、そのものを変える一冊となると信じています。

理由は2つあります。一つは今というタイミング、そして、もう一つはその内容です。今、私たちは1年半にわたる新型コロナ・ウイルス感染症の拡大による不自由な生活を強いられています。ワクチン接種による状況の改善が期待されているとはいえ、感染拡大の波は止まっています。このような状況である今この回勅の日本語訳が出版されることはまさに教皇様から私たち一人ひとりへのプレゼントだと言えます。そして、その内容は私たちに希望を与えてくれるものです。

暗雲立ちこめる中で、パパ様が私たちへの希望に満ちたメッセージ、それを与えてください。私たち、それぞれ、がこの教皇様が訴えるような生き方をするようになればすべての人と兄弟のように暮らすそういう世界を作り上げていくことができるのだという希望が湧いてくるのです

内容そのものは実際に手にとってじっくり読んで頂くしかありませんが、教皇フランシスコらしい部分をいくつかご紹介したいと思います。

よきサマリア人のたとえの解説のところでは、イエス様に質問したファリサイ人のように私の隣人は誰ですか、と問うのではなく、私が隣人になるようにと、教皇様は言われています。イエスが自分にとって近い人は誰かと自らに問うのではなく、自分自身が近いもの＝隣人となるよう招いておられるのです。示されているのは自分の所属する集団の仲間かどうかにかかわらず、助けを必要としている人の前にいるように、ということです。

そうすることによって、教皇様らしい言い方ですけども、駆逐するのが非常に難しいウイルスである過激な個人主義に勝つことができる。そして私たちは奇跡を起こすことさえできると教皇様は言われます。どういう奇跡かといいますと、無関心がはびこる中、自分の心配ごとや急ぎの用事は二の次にして、注意を向け、微笑み掛け、励ましの言葉を掛け、話を聴くため、時間を作る。そんな優しい人が現れる奇跡が起こるのです。私たち自身が、このような優しい人になることができれば、まさに、私たちを通して神様がそういう奇跡を起こしてくださいます。そうすれば私たちにとどまらず、若者たちに、次の世代に、その新しい文化を伝えることができるでしょう。

教皇様は独特の言い方で言われます。子どもたちには対話という武器を装備させましょう。出会いという優れた格闘を教えましょう。真に優しい人とは、たとえ、対立と衝突の過去があっても、その相手を許すことができる強さを持つ人です。私たちがすべての人が兄弟である、と言えるためには自分を傷つけたその人をも許す心を持たなければなりません。そして、教皇フランシスコはそれが可能だと訴えます。

教皇様は次のように言われています…許すとは忘れることではありません。むしろ、どうにも否定しきれない、客観視できない、消し去ることのできないものがあつたとしても、それでも許すことができると言いたいのです。如何にしても許容し得ない、納得できない、目をつぶるわけにはいかないことがあるとしても、それでも許すことはできるのです。何があろうとも忘れてはならないことがあるとしても、それでも許すことはできるのです。まことに許すことができる人は忘れるのではなく、自分を傷つけたそれと同じ破壊的な力にとりつかれた状態から離れる決意をするのです。負の連鎖を断ち切り破壊力の増大を押し留めます。

この回勅の付録として最後に加えられているのは、2019年の教皇フランシスコとイスラームの大イマームであるアフマド・アル・タイーブ師による共同文書「世界平和と共生のための人類の兄弟愛」、この文書、がこの回勅の出発点になっているからです。日本人の私たちにはピンとこないかもしれませんが、西洋世界とイスラーム世界とは1000年以上にわたって敵対してきた間柄であつたことを考えるならば、この文書が画期的な声明であつたことは理解できるでしょう。このように教皇様ご自身が長く敵対してきた相手とも和解と共生が可能だということを示されたのです。この回勅と出会うことによって、私たちは変わることができます。

何より教皇フランシスコが招かれるように、夢を持つことができます。パパ様と共に夢を持ち、その夢に向かって、歩んで行きましょう。パパ様はこう私たちを励まされています。私たちには支えてくれる、助けてくれる、そして、前を見るよう互いに助け合う共同体が必要なのです。共に夢見ることほど大切でしょう。ただ一つの人類家族として、等しく生身の人間である旅人として、私達皆を宿すこの地球の子供として夢を見ようではありませんか。私たちは皆それぞれ豊かな信仰や信念を持ち、それぞれ意見を持っていて、誰もが兄弟なのです。

日本においてカトリック信者は少数派に過ぎません。しかしながら、まず貴方と私が、自分もいる場所—家庭、職場、教会、地域、そういうところにおいて、平和の実行者となるならば、私たちはパン種となることができ、日本社会というねり粉の全体、を豊かに膨らませることができるはずです。善きパン種となるために、ぜひこの回勅を手にとりてじっくり読み込んで下さい。

<https://www.youtube.com/watch?v=N2N7ZeuyXGA> から。



2021年9月にカトリック中央協議会より発行された教皇フランシスコの新しい回勅。全270ページ。訳者は西村桃子。

カトリック池田教会 2021年の待降節黙想会 「十字架を見つめ、わたしの日々を想う」

黙想指導：稲葉善章神父（御受難修道会）



今年の待降節黙想会が池田教会聖堂に於いて12月5日13時から開催され、御受難修道会の稲葉善章神父が一時間の講話をされ、質疑に応答されました。

講話『十字架を見つめ、わたしの日々を想う』の要約

私達は日曜日のミサで既に神の救いを受け、神の救いを仰ぎ見えています。ミサの後それぞれの日常に帰っていく事になります。日常に戻ると、神の救いを仰ぎ見たことをしばしば忘れさせてしまいます。忘れる原因は三つあります。「日常のすべきこと、しなければならないこと」「それぞれ各自の心配事、悩み事」「コロナ禍による全ての人に及ぶ災い」です。三つの原因に共通している事は、私達の心の目が動いている事で、私たちの心が奪われてゆくという事です。それは十字架を見ることが出来なくなり、イエスキリストを見失っている事に

なります。私たちはこの三つの原因が重なり合い、イエスから心を奪われていく現代社会で生きています。イエスは十字架を見つめ、神の救いを仰ぎ見る事を思い出すように勧めています。

本来半年前に到着すべきところの御受難会創立300周年の記念アイコンが、ようやく日本に到着し、黙想会のこの日に池田教会の聖堂にあります。この事からも十字架の聖パウロが助け手になっているのを確信します。

御受難修道会の創始者である十字架の聖パウロの言葉を引用します。

「勇気を出してイエスと共にあなたの十字架を運びなさい。」

「命の木の陰で静かに眠りなさい。その木から落ちる実をあなたの食物としなさい。」

「これらの果実は、初め、苦い味がしますが、後に霊的味覚にとって、とても甘美なものになります。」

（出典：十字架の聖パウロの365日「今日を生きる知恵のことば」p298 10月18日十字架の果実）

「勇気を出して十字架を運ぶ」こと、それが『ゆるし』です。命の木こそ十字架です、「十字架の陰で静かに安らぐ」ことが『やすらぎ』です。「その木から落ちる実をあなたの食物としなさい」その木はやはり十字架です、落ちる実はイエスキリストです、これが『カづけ』となります。

この『ゆるし』『やすらぎ』『カづけ』こそ、十字架の聖パウロが十字架を見つめた時、彼の中に神からプレゼントされたことであり、十字架の聖パウロは、私達に、十字架を見つめてゆくと私達は日々『ゆるされている、やすらぎを与えられている、カづけを与えられている』事を思い出すことが出来ると伝えてくれ

ます。

私達は日常に戻ると、日々『ゆるされている、やすらぎを与えられている、力づけを与えられている』事を忘れてしまいます、忘れさせられてしまいます。それは仕方のない事です。それが日常だからです。今、私達は『忘れる事、忘れさせられている事』を認識しました。忘れた時にどうすればよいのか？『十字架を見つめなさい』とイエスは教えてくれました。十字架を見つめ思い出す事で、忘れてしまった神の救いを仰ぎ見、取り戻す事が出来ます。

イエスは、今、私達を『忘れる者』から、『思い出す者』へ変えてくれました。私達を『忘れる者から思い出す者』に変えて頂き、毎日『ゆるし、やすらぎ、力づけ』を与えてくれる、救い主イエスキリストに賛美と感謝しながら、この待降節を歩み、喜びのうちに救い主を待ち望みたいと思います。

質疑応答の要約

質疑その1：他者をゆるすことが出来ない時、どうしたらゆるす事が出来るか。

応答：わたしたちが他者をゆるすことができないなら、自分のその現実をイエスに捧げて、他者をゆるせるように天の父に変えていただくようにイエスに祈る事です。イエスが、あなたの祈りを天の父へと届けてくれることは「主の祈り」で、わたしたちに、もうすでに知らされています。

質疑その2：御受難修道会創立300年の記念アイコンが本日の黙想会の日に池田教会へ到着しました。そのアイコンの登場人物についてご説明をお願い致します。

応答：本誌の表紙写真の説明（本文10ページ）参照ください。

御受難修道会の創立300周年記念の待降節黙想会を終えて

コロナ禍の状況下にあつて家に閉じこもりがちであつたにもかかわらず、記念すべき創立300周年となつた御受難修道会から稲葉善章司祭を黙想指導者として迎え

て、黙想会が開催出来た事を感謝し、この喜びは天に捧げたいと思います。

そして、稲葉神父様、御受難会創立300周年で祝つて、更なる発展のために歩みだされた記念すべき年の四旬節と待降節の計二回の黙想会で貴重なご講話を頂きました。新型コロナウイルス感染予防の為、通常の黙想会と大幅に違う形式・日程にも拘わらず快く受け入れて頂きました。今年は誰もがコロナ禍という大きな受難を背負つた年でもありましたが、このような年であつたからこそ、いつもの年以上に、受難について、十字架について、思い起し、大きな感銘をわたくしたちにもたらされました。

信徒の皆様は、通常の黙想会と大幅に違う日程にも拘わらずに黙想会に参加頂きました。信仰を深め、日常の糧となり力づけとなれば幸いです。感染予防の為とはいえ、通常と日程を大幅に変えてしまったことから、参加を希望されていたにも拘わらず、参加出来なかつた方が大勢おられたと思います。至らず大変申し訳ありませんでした。しかし、本誌に掲載された講話の要約や講話の音声を視聴して、日常の糧となれば幸いです。様々な困難を取り除くためには、ご相談に乗って頂いたノノイ神父様、評議会の皆様、研修委員会の皆様、広報委員会の皆様の助けは欠かせませんでした。これからも同じような状況が続いた場合の黙想会の開催日程について良い知恵があれば是非お聞かせ頂きますようお願い致します。

研修委員会

講話音声のCDの貸し出し

待降節黙想会（12月5日13時～）の稲葉善章司祭の講話と質疑応答の音声をCDに記録して、カール記念館一階ホールのマルチ・トレーに入れて、貸し出しています。

‘PC用’と記入されたCDだけはCD-またはDVD-プレーヤーで再生できません。

広報委員会

大人の日曜学校

待降節第I主日 (11月28日)

ルカ・21章25～28, 34～36節

「いつも目を覚まして祈りなさい」

待降節第一主日、イエス様の誕生に向かう準備を始める時期に終末を示唆する福音箇所を読む事は、始まりに終わりを学ぶようで少々戸惑いを感じながらも、皆さんの心のこもったお話で和気あいあいとした有意義な福音の分かち合いが出来ました。

日々の煩いの中・心にゆとりが無い中では、なかなか神を感じる事は難しいですね。また、神の信じ方、受け止め方は人それぞれあり、疑問を持ち答えを求めていく事や心の中で神様に話しかけたり文句を言ったりする事もそれぞれ尊い信仰心だと思いました。

テレビ番組の『日本沈没』のような荒れ狂う天変地異ではなくともコロナ禍、生活の煩い、AIなど神に置き換わるような技術革新が、私達を神から引き離し、不安で孤独な生活を強いているように思います。

しかしながら、「コロナ禍や生活の煩いのおかげで神を意識する事が出来た」とのお話も出ましたように日々の試練を『お恵み』として受け止め、心が鈍くならない様に、煩い多き日常の生活の中でこそ

「身を起こして頭を上げなさい。」(ルカ21章28節)

「いつも目を覚まして祈りなさい。」(ルカ21章36節)

の御言葉を思い出すようにし、神から離れない様に努めたいと思いました。

研修委員会

財務こぼれ話 第5回
財務委員会

皆様、クリスマスおめでとうございます！

日本では12月26日には突然クリスマスの飾りがお正月の飾りに変身していますが、教会にとっては1月6日のご公現の祭日（現在では1月2日～8日までの日曜日に祝われていますが）まではクリスマス（降誕節）です。

さて、クリスマスにあたっては皆様にクリスマス特別献金をお願いしております。この献金は年に3回お願いしている大祝日献金の一つです。後の二つは春の復活祭特別献金、夏の聖母被昇天祭特別献金です。

大祝日献金は維持費献金、主日の堂内献金とならんで信徒通常献金のひとつとして、献金収入としては重要な位置づけです。池田教会では幸いにも毎年たくさんの皆様のご協力を頂いて、ありがたく思っております。

この大祝日献金については、例えばクリスマス特別献金なら「からしだね2月号」の紙面で、必ず集計結果を前年対比でお知らせしておりますので、ご覧いただければ幸いです。

この他クリスマスと復活祭には皆様に「愛の献金」をお願いしております。これは、待降節や四旬節の間、世界中の恵まれない方々のことを思いながら少額の献金を瓶や缶などに貯めて、クリスマスや復活祭の日に教会にお持ち頂くというのが趣旨です。

ただ、近年は銀行も郵便局も世知辛くなり硬貨の入金に手数料がかかり始めています。なので、大変恐縮ですが、貯まった小銭をなるべく紙幣に換えて献金して頂くと、経費を少しでも押さえることができます。

今はまだ現実味を帯びておりませんが、そのうち献金を電子マネーで頂いたり、インターネットバンキングで振り込んで頂いたりする日がくるのかもしれませんが、形は変わっても、皆様の献金が教会の維持運営を支えることに変わりはないと思います。どうぞ、今後とも特別献金も含め、教会の献金への皆様のお力添えをよろしく願いいたします。

1月・黙想会などのお知らせ
宝塚黙想の家

■ 日帰り黙想会 10:00～15:30

1月11日（火）指導：稲葉 善章神父

1月27日（木）指導：染野 治雄神父

1月28日（金）指導：山内 十束神父

■ 一泊黙想会

1月11日（火）17:00～12日（水）15:30

指導：稲葉 善章神父

1月28日（金）17:00～19日（土）15:30

指導：染野 治雄神父

■ カトリック教会のカテキズム

第2・第4 水曜日10:00～12:00

指導：染野 治雄神父

教会の教えを学んでみたい、もう一回学び直してみたい方、カトリック教会のカテキズムと一緒に読み、教会が何を教えてきたのか、伝えようとしているのかを学びます。

■ 聖地エルサレムを学ぶ

第3 木曜 10時～12時、指導 笹田修道士

聖なる都エルサレム、この神秘的な都は、私たちが知らない魅力や秘密があふれています。何度も聖地を訪れて、研究しているBr.笹田がエルサレムや周辺の世界を学ぶ旅をお手伝いします。このクラスに参加して、エルサレムを満喫しましょう。

■ ギリシャ語で味わう聖書のことば

第1 火曜 10時～12時、指導 稲葉善章神父

聖書をギリシャ語で読んだら楽しいだろうと夢見る人は多いでしょう。一日一文、単語ひとつひとつ、一緒に読み、発音し、味わっていくなら、それは夢ではありません。ギリシャ語で聖書を味わってみたい方、ぜひ夢をかなえにいらしてください。

■ 聖書の基本

第1・3 水曜日 10:00～12:00

指導：山内 十束神父

聖書を読むことが苦手、どう読んだらいいのかわからない方、基本的な知識や読み方を学んでみるクラスです。

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎0797 (84) 3111

今月の表紙写真について

御受難修道会は創立300周年を記念して作成したイコンを世界にある管区の諸施設に巡回させてきました。記念イコンがカトリック池田教会に届けられたのは待降節黙想会の開催する前日でした。聖堂の舞台に置かれた記念イコンを背にして、待降節第1主日には稲葉善章司祭がミサを司式され、待降節黙想会で黙想の指導をされました。待降節第2主日（12月12日）には主任司祭のノイ・プラザ司祭がミサを司式された後に記念イコンと並んで立たれ、1年9か月振りにマスクを外されました。

右図の記念イコンには十字架上のイエス・キリストを中心にして、修道会創立者とマリア様の立像と、左と右に一对の聖人と福者の座像が描かれています。

注1：「ウオード神父講話集」p.159-160, 女子御受難会刊。注2：「十字架の使徒」p.155, ウオード神父著、あかし書房。

注3：「ウオード神父講話集」p.278-280。

注4：「御受難修道会の聖人と福者」女子御受難修道会編、ドン・ボスコ。



上..聖ジェンマ・ガルガーニ(注3)
下..福者イシドール・デロール修道士(注4)

右..創立者・十字架の聖パウロ
中央..イエス・キリスト
左..聖母マリア

上..聖ガブリエル修道士(注1)
下..福者ドミニコ・バルベリ修道士(注2)

編集後記

池田教会の斜め向かいに、池田市が公園を造成中である。教会への行き帰りに、被いの中をちょっと覗いてみると、どんな公園になるのだろうか、どんな木を植えるのだろうか、と楽しみにしている。公園にベンチでも設置してくれたら、一息入れるのにちょうどいいではないか。ひるがえって、聖書で公園といえば、ゲッセマネの園だ。イエス様が間近に迫った苦難を前に三回も天の父に向かって祈りを捧げたところ。そのかたわらで弟子たちがのんきに眠り呆けていたところ。イエス様はこの苦しみから逃れられないのであれば、「み心のままに」と祈ったのだった。聖母マリアが大天使ガブリエルに答えたように。

ソフィー